

## 地域スポーツ参加者の参加動機について

季 真・金子守男・仲野隆士

### 1. はじめに

T市の地域スポーツ活動には、様々な人たちが参加していることは先行研究<sup>(2)</sup>でのべた。本研究報告ではこれらの様々な地域住民がどういった参加動機を持ち地域スポーツ活動に参加しているのか、あるいはこれらの参加動機はどういった関連をもって成立しているのかを明らかにしていく。

地域スポーツ活動は競技スポーツと性格を異にするレクリエーションなスポーツ活動であると考えられるが、この点を考慮して地域住民のスポーツ活動への参加動機を推測すると、おそらく「楽しいからスポーツ活動をする」といった参加動機が多いものと考えられる。「楽しい」というのはスポーツ活動の基本的な性格であるものの、この参加動機はきわめてばく然としており、具体的に何が地域住民のスポーツ活動を「楽しい」活動にしているのかがわかりにくい。そこで本研究では、「楽しいからスポーツ活動をする」といった参加動機が、どういった参加動機と関連を有するのかを検討していくことを主要目的とし、地域スポーツ参加者の参加動機について論じていきたい。

本研究の調査期間は昭和62年11月から一ヶ月間とした。有効回収数は1,829、有効回収率は79.8%であった。

### 2. 参加動機の種類

地域住民がスポーツ活動に参加する動機は様々であると考えられるが、本調査では先行研究<sup>(2)</sup>で行われてきた調査やその結果を考慮して、次のような11項目の参加動機を設定した。つまり [①「運動不足をなくすため」、②「身体

を丈夫にするため」、③「ストレスを解消するため」、④「仲間をつくるため」、⑤「いろいろな人と交流するため」、⑥「つきあいのため」、⑦「さそわれるから」、⑧「好きだから」、⑨「楽しいから」、⑩「技術を向上させるため」、そして⑪「試合に出て勝ちたいから」] である。

本調査ではこの11項目の参加動機について、それぞれ [①「あてはまる」、②「わからない」、③「あてはまらない」] という3段階の順位尺度を設け、被調査者に該当する箇所に○を記入してもらった。図1はそれぞれの参加動機への該当率のみを抽出してグラフ化したものである。この結果によると、「楽しいからスポーツ活動をする」という参加動機の比率が94%ともっとも高く、次に「好きだからスポーツ活動をする」という参加動機が93%を占めている。T市の地域スポーツ活動への参加者のほとんどが、こうした「楽しみ志向」の動機によってスポーツ活動を継続していることが確認できる。また「運動不足をなくすため」「ストレスを解消するため」「身体を丈夫にするため」「いろいろな人と交流するため」「仲間をつくるため」といった参加動機の比率もそれぞれ80%以上を占めており、このスポーツ活動が参加者の健康管理の一環となったり、あるいは参加者間の親睦や交流の機会の間となったりしていることを確認できる。これに対して「技術を向上させるため」(43%)、「試合に出て勝ちたいから」(31%)、「つきあいのため」(16%)といった参加動機の占める比率は低い。つまり、T市の地域スポーツ活動への参加者は単なる勝敗の競い合いや、おつきあいによってスポーツ活動をするのではなく、個人の健康管理や地域住民との親睦といった、いわゆる「余暇善用」<sup>(3)</sup>を目的にスポーツ活動を行っ

ているものと考えられる。

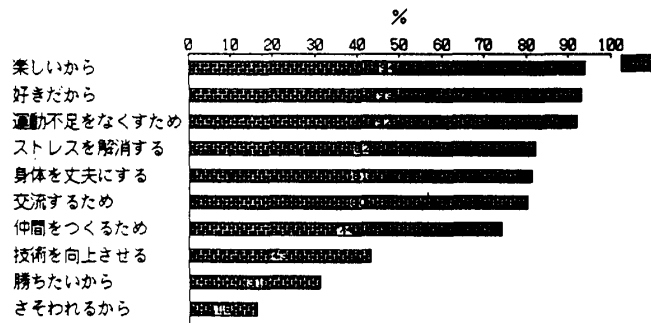


図1 スポーツ活動を行う動機 (段階選択回答)

### 3. 参加動機間の相関関係

T市の地域スポーツ活動は、参加者にあらゆる「余暇善用」の機会を有しているということが確認できた。次にこの11項目の参加動機がどういった関連をもっているのか検討してみた。

表1は参加動機の相関行列である。個々の相関はすべてが強いとはいえないが、中には相関係数が0.40以上の正の相関を有するものがある。

このようなかかり相関の高いものをあげると、「楽しいから」と「好きだから」との間の相関係数が0.57、「仲間をつくるため」と「いろいろな人と交流するため」との間の相関係数が0.63、「運動不足をなくすため」と「身体を丈夫にするため」との間の相関係数が0.41、「技術を向上させるため」と「勝ちたいから」との間の相

関係数が0.55、「つきあいのため」と「さそわれるから」との間の相関係数が0.44となっている。これらの相関係数の結果から、T市の地域スポーツ活動参加者の参加動機は、「楽しみ志向型」「親睦・交流志向型」「健康管理志向型」「技術・勝利志向型」「つきあい志向型」という5つの動機にわけられるのではないかと考えられる。

また相関係数が0.30~0.39以内のものをあげると、「仲間をつくるため」と「ストレスを解消するため」との間の相関が0.36、「運動不足をなくすため」と「ストレスを解消するため」との相関が0.30となっている。この結果から、参加者が地域スポーツ活動を継続していくなかで、健康や体力づくりはもとより、仲間づくりや交流活動をすることもストレスの解消を見いだしていくという傾向を多少なりとも認めることができる。

### 4. 「楽しいからスポーツ活動をする」という参加動機と他の参加動機との関連

冒頭で述べたようにこの節は、参加者の参加動機として最も比率の高い「楽しいからスポーツ活動をする」という動機と他の参加動機との間の関係を検討していくことによって、地域スポーツ活動の「楽しさ」の中身について考察を加える。その方法として、1)チームの「スポー

表1 参加動機の相関係数行列

\* p < .01 \*\* p < .001

	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 5	Q 6	Q 7	Q 8	Q 9	Q 10	Q 11
Q 1 運動不足をなくす		0.41**	0.29**	0.18**	0.14**	-0.06*	-0.05	0.13**	0.15**	0.13**	0.06
Q 2 身体を丈夫にする	0.41**		0.23**	0.19**	0.18**	0.03	-0.05	0.17**	0.16**	0.25**	0.14**
Q 3 ストレスを解消する	0.29**	0.23**		0.36**	0.25**	0.06	0.03	0.14**	0.14**	0.16**	0.07*
Q 4 仲間をつくる	0.18**	0.19**	0.36**		0.63**	0.24**	0.10**	0.13**	0.16**	0.21**	0.18**
Q 5 色々な人と交流する	0.14**	0.18**	0.25**	0.63**		0.22**	0.05	0.12**	0.18**	0.16**	0.14**
Q 6 つきあいのため	-0.06*	0.03	0.06	0.24**	0.22**		0.44**	-0.08**	-0.03	0.06	0.16**
Q 7 さそわれるから	-0.05	-0.05	0.03	0.10**	0.05	0.44**		-0.14**	-0.08**	0.03	0.10**
Q 8 好きだから	0.13**	0.17**	0.14**	0.13**	0.12**	-0.08**	-0.14**		0.57**	0.17**	0.11**
Q 9 楽しいから	0.15**	0.16**	0.14**	0.16**	0.18**	-0.03	-0.08**	0.57**		0.16**	0.09**
Q 10 技術を向上させる	0.13*	0.25**	0.16**	0.21**	0.16**	0.06	0.03	0.17**	0.16**		0.55**
Q 11 試合に出て勝ちたい	0.06	0.14**	0.07*	0.18**	0.14**	0.16**	0.10**	0.11**	0.09**	0.55**	

ツ種目」の違い、2) 試合や練習への「参加頻度」の違い、そして、3) 参加者の「年齢」の違いにより、「楽しいから」といった参加動機を直接的・間接的に規定する変数間の連関構造を比較し、検討していった。

(1) クラブの「スポーツ種目」の違いからみた参加動機

ここでは「スポーツ種目」を、先行研究<sup>(2)</sup>で述べた理由に従い、A種目：男性を中心とした「ソフトボール」、B種目：「ママさんバレーボール」、C種目：「バドミントン、卓球、テニス」の3つに分け、「楽しいからスポーツ活動をする」という参加動機を規定する変数間の関連を比較、検討した。

A種目に関しては(表2)、「好きだから」「運動不足をなくすため」「身体を丈夫にするため」という3変数が、「運動不足をなくすため」「ストレスを解消するため」という2変数を含めて、直接的・間接的に「楽しいから」という参加動機を規定していることを確認できる。

次に、C種目について見てみると(表4)、「好きだから」「運動不足をなくすため」「さそわれるから」「身体を丈夫にするため」という4変数が、「技術を向上させるため」「つきあいのため」

表2 種目別、参加機「楽しいから」との相関：A種目  
N=1081

参加動機	平均値	相関係数	相関係数	順位
運動不足をなくす	1.17	0.53	0.22**	2
身体を丈夫にする	1.37	0.74	0.20**	3
ストレスを解消する	1.37	0.75	0.14**	7
仲間をつくる	1.40	0.76	0.15**	5
色々な人と交流する	1.26	0.63	0.18**	4
つきあいのため	2.13	0.96	-0.06	9
さそわれるから	2.55	0.80	-0.10*	10
好きだから	1.10	0.40	0.62**	1
技術を向上させる	2.20	0.93	0.15**	6
試合に出て勝ちたい	2.30	0.91	0.07	8

\* 平均値：順位尺度の平均値である。  
1←肯定、2→わからない、3→否定  
\* \* p<.01, \*\* p<.001

表3 種目別、参加動機「楽しいから」との相関：B種目  
N=252

参加動機	平均値	標準偏差	相関係数	順位
運動不足をなくす	1.06	0.34	-0.02	8
身体を丈夫にする	1.18	0.55	0.05	4
ストレスを解消する	1.16	0.51	-0.04	9
仲間をつくる	1.40	0.76	-0.07	10
色々な人と交流する	1.34	0.70	0.01	6
つきあいのため	2.49	0.83	0.02	5
さそわれるから	2.68	0.69	-0.01	7
好きだから	1.04	0.25	0.29**	1
技術を向上させる	1.66	0.91	0.13	2
試合に出て勝ちたい	2.02	0.95	0.08	3

\* 平均値：順位尺度の平均値である。  
1→肯定、2→わからない、3→否定  
\* \* p<.01, \*\* p<.001

表4 種目別、参加動機「楽しいから」との相関：C種目  
N=408

参加動機	平均値	標準偏差	相関係数	順位
運動不足をなくす	0.96	0.19	0.98**	2
身体を丈夫にする	1.12	0.50	0.44	4
ストレスを解消する	1.39	0.83	0.33	10
仲間をつくる	1.29	0.76	0.33	9
色々な人と交流する	1.25	0.70	0.35	7
つきあいのため	2.07	1.05	0.39	6
さそわれるから	2.61	0.83	0.61**	3
好きだから	0.96	0.19	0.99**	1
技術を向上させる	1.93	0.98	0.39	5
試合に出て勝ちたい	1.82	1.06	0.34	8

\* 平均値：順位尺度の平均値である。  
1←肯定、2→わからない、3→否定  
\* \* p<.01, \*\* p<.001

といった2変数を含めて、やや複雑な関連を持ちながら直接的・間接的に「楽しいスポーツ活動をする」という参加動機を規定していることを確認できる。

そしてB種目に関しては(表3)、「楽しいスポーツ活動をする」という参加動機と相関のある変数は、「好きだから」のみであり、更にこの変数と相関のある変数はなく、従ってダイアグ

ラムの作成も不可能であった。

以上の結果から3種目ともに、「楽しいスポーツ活動をする」という参加動機と関連の高い変数は「好きだから」であった。また、C種目はA種目と比較すると、やや複雑な関連をもって「好きだから」という参加動機を規定しており、また変数間の相関も高いことがわかる。更にC種目は他の種目と比較すると、やや「技術の向上」をも活動の目的とするスポーツ活動であるが、A、B種目と比較すると比較的練習の行いやすいスポーツ種目であることに起因するものと考えられる。

### (2) 試合や練習への「参加頻度」の違いからみた参加動機

ここでは参加者の試合や練習への参加頻度を、「ほとんど参加する」「時々参加する」「あまり参加しない」の3つに分け、「楽しいから」という参加動機を規定する変数間の関連比較、検討した。

まず「ほとんど参加する」参加者のみの場合を見てみると(表5)、「好きだから」「運動不足をなくすため」「身体を丈夫にするため」といった3変数が直接的に「楽しいから」との相関を有し、「ストレスを解消するため」「仲間をつくるため」「いろいろな人と交流するため」といった3変数が間接的に「楽しいから」との相関を有していることを確認できる。

次に「時々参加する」参加者のみの場合を見てみると(表6)、「好きだから」「身体を丈夫にするため」「ストレスを解消するため」「いろいろな人と交流するため」といった4変数が直接的に「楽しいから」との相関を有し、「運動不足をなくすため」「仲間をつくるため」といった2変数が間接的に「楽しいから」との相関を有していることを確認できる。

そして、「あまり参加しない」参加者のみの場合を見てみると(表7)、「好きだから」「技術を向上させるため」といった2変数が直接的に「楽しいから」との相関を有し、「身体を丈夫にするため」という変数が間接的に「楽しいから」との相関を有してきていることを確認できる。

以上の結果より、練習や試合に「ほとんど参加する」人と「時々参加する」人は、「楽しいからスポーツ活動をする」という参加動機が、「好きだから」「運動不足をなくすため」「身体を丈夫にするため」「ストレスを解消するため」「仲間をつくるため」「いろいろな人と交流するため」といった6変数によって規定されており、これに対して練習や試合に「あまり参加しない」人は、「好きだから」「身体を丈夫にするため」「技術を向上させるため」といった3変数によって規定されていることがわかる。つまり練習や試合に「参加する人」と「あまり参加しない人」では、スポーツ活動に対する「楽しみ」は、複数の参加動機が相互に関係しあって成立していく「楽しみ」であり、後者のスポーツ活動に対する「楽しみ」は、数種の参加動機によって支えられている「楽しみ」であると考えられる。従って、「参加頻度」の違いによって、個々人の現在のスポーツ活動に対する考え方、あるいは活動目的の違いが生じていくものと推測される。

### (3) 「年齢層」の違いからみた参加動機

ここでは参加者を「20歳代」「30歳代」「40歳代」「50歳以上」の4つの年齢層に分け、「楽し

表5 参加頻度、参加動機「楽しいから」との相関：殆ど参加(1111)

参加動機	平均値	標準偏差	相関係数	順位
運動不足をなくす	1.15	0.52	0.30**	2
身体を丈夫にする	1.28	0.67	0.20**	3
ストレスを解消する	1.29	0.69	0.04	7
仲間をつくる	1.38	0.76	0.10	5
色々な人と交流する	1.25	0.63	0.13	4
つきあいのため	2.28	0.94	-0.09	9
さそわれるから	2.67	0.72	-0.10	10
好きだから	1.04	0.26	0.61**	1
技術を向上させる	1.90	0.97	0.08	6
試合に出て勝ちたい	2.02	0.96	-0.02	8

\* 平均値：順位尺度の平均値である。

1→肯定、2→わからない、3→否定

\* \*  $p < .01$ , \*\*  $p < .001$

表6 参加頻度,参加動機「楽しいから」との相関:時々参加(424)

参加動機	平均値	標準偏差	相関係数	順位
運動不足をなくす	1.10	0.43	0.16**	5
身体を丈夫にする	1.29	0.67	0.21**	8
ストレスを解消する	1.30	0.69	0.25**	4
仲間をつくる	1.39	0.75	0.22**	3
色々な人と交流する	1.29	0.65	0.24**	7
つきあいのため	2.30	0.92	-0.05	9
さそわれるから	2.65	0.73	-0.05	10
好きだから	1.06	0.31	0.58**	1
技術を向上させる	1.98	0.95	0.12**	2
試合に出て勝ちたい	2.21	0.93	0.08	6

\*平均値:順位尺度の平均値である。

1→肯定, 2→わからない, 3→否定

\* \*\*p<.01, \*\*p<.001

表7 参加頻度,参加動機「楽しいから」との相関:余り参加しない(215)

参加動機	平均値	標準偏差	相関係数	順位
運動不足をなくす	1.17	0.54	0.11	5
身体を丈夫にする	1.32	0.69	0.04	8
ストレスを解消する	1.38	0.74	0.12	4
仲間をつくる	1.46	0.79	0.15*	3
色々な人と交流する	1.34	0.70	0.07	7
つきあいのため	2.27	0.91	-0.06	9
さそわれるから	2.58	0.78	-0.09	10
好きだから	1.13	0.44	0.64**	1
技術を向上させる	2.19	0.92	0.20**	2
試合に出て勝ちたい	2.47	0.83	0.08	6

\*平均値:順位尺度の平均値である。

1→肯定, 2→わからない, 3→否定

\* \*\*p<.01, \*\*p<.001

いからスポーツ活動をする」という参加動機を直接的・間接的に規定していく変数間の連関構造を比較,検討した。

まず,20歳代の参加者に関しては(表8),「楽しいから」という参加動機と直接的に相関が認められたのは,「好きだから」「技術を向上させるため」「試合に出て勝ちたいから」「身体を丈夫にするため」「いろいろな人と交流するため」であり,間接的に相関を有するのが「仲間をつ

くるため」と「つきあいのため」であった。

以下,「楽しいから」という参加動機への直接的,間接的な相関を有する変数を各年齢層別にあげていくと,30代の参加者に関しては(表9),直接的に相関が認められたのは,「好きだから」「運動不足をなくすため」「仲間をつくるため」であり,間接的に相関を有するのが「身体を丈夫にするため」「ストレスを解消するため」「つきあいのため」「技術を向上させるため」「試合に出て勝ちたいため」であった。

40歳代の参加者に関しては(表10),直接的に相関が認められたのは,「好きだから」「ストレスを解消するため」「仲間をつくるため」であり,間接的に相関を有するのが「身体を丈夫にするため」「つきあいのため」「技術を向上させるため」であった。

そして50歳代の参加者の場合を見てみると(表11),直接的に相関が認められたのは,「好きだから」「運動不足をなくすため」「ストレスを解消するため」「仲間をつくるため」「技術を向上させるため」であり,間接的に相関を有するのが「身体を丈夫にするため」「つきあいのため」であった。

以上の結果からここでは,「スポーツ種目」別や「参加頻度」別から参加動機をみた場合より

表8 参加動機「楽しいから」との相関:20歳代 N=210

参加動機	平均値	標準偏差	相関係数	順位
運動不足をなくす	1.12	0.43	0.10	10
身体を丈夫にする	1.20	0.59	0.21*	5
ストレスを解消する	1.24	0.57	0.19*	7
仲間をつくる	1.32	0.71	0.12	8
色々な人と交流する	1.29	0.68	0.25**	4
つきあいのため	1.79	0.72	0.19*	6
さそわれるから	1.78	0.62	0.11	9
好きだから	1.09	0.47	0.70**	1
技術を向上させる	1.49	0.72	0.36**	2
試合に出て勝ちたい	1.60	0.76	0.31**	3

\*平均値:順位尺度の平均値である。

1→肯定, 2→わからない, 3→否定

\* \*\*p<.01, \*\*p<.001

表9 参加動機「楽しいから」との相関: 30歳代  
N = 707

参加動機	平均値	標準偏差	相関係数	順位
運動不足をなくす	1.08	0.34	0.26**	2
身体を丈夫にする	1.20	0.52	0.17**	6
ストレスを解消する	1.18	0.50	0.18**	4
仲間をつくる	1.25	0.57	0.24**	3
色々な人と交流する	1.23	0.57	0.11*	9
つきあいのため	1.73	0.62	0.08	10
さそわれるから	1.83	0.54	0.12*	8
好きだから	1.09	0.43	0.54**	1
技術を向上させる	1.60	0.70	0.17**	5
試合に出て勝ちたい	1.73	0.67	0.16**	7

\* 平均値：順位尺度の平均値である。

1→肯定, 2→わからない, 3→否定

\* \* p < .01, \*\* p < .001

表10 参加動機「楽しいから」との相関: 40歳代  
N = 781

参加動機	平均値	標準偏差	相関係数	順位
運動不足をなくす	1.06	0.30	0.16**	8
身体を丈夫にする	1.18	0.53	0.18**	6
ストレスを解消する	1.18	0.49	0.24**	3
仲間をつくる	1.29	0.61	0.26**	2
色々な人と交流する	1.21	0.56	0.21**	4
つきあいのため	1.69	0.62	0.16**	7
さそわれるから	1.85	0.50	0.08	10
好きだから	1.08	0.40	0.54**	1
技術を向上させる	1.66	0.67	0.19**	5
試合に出て勝ちたい	1.75	0.62	0.14**	9

\* 平均値：順位尺度の平均値である。

1→肯定, 2→わからない, 3→否定

\* \* p < .01, \*\* p < .001

顕著な差が見られた。つまり 20 歳代の参加者は、「楽しいから」「好きだから」といった「楽しみ志向」と直接的に、あるいは重複して関連をもつ参加動機は、「技術を向上させるため」「試合に出て勝ちたいから」といった「技術・勝利志向」であり、こうした「楽しみ志向」と「技術・勝利志向」の強い関連は、30 歳代の参加者

表11 参加動機「楽しいから」との相関: 50歳以上  
N = 131

参加動機	平均値	標準偏差	相関係数	順位
運動不足をなくす	1.06	0.32	0.27*	3
身体を丈夫にする	1.16	0.52	0.23*	6
ストレスを解消する	1.18	0.43	0.33**	2
仲間をつくる	1.37	0.68	0.27*	4
色々な人と交流する	1.25	0.64	0.13	10
つきあいのため	1.57	0.64	0.23*	7
さそわれるから	1.74	0.58	0.21	8
好きだから	1.02	0.23	0.62**	1
技術を向上させる	1.64	0.64	0.25*	5
試合に出て勝ちたい	1.71	0.56	0.18	9

\* 平均値：順位尺度の平均値である。

1→肯定, 2→わからない, 3→否定

\* \* p < .01, \*\* p < .001

の場合になると、非常に希薄になっていることを確認できる。そして 40 歳代の参加者の場合には、今後は「楽しみ志向」や「健康管理志向」（「身体を丈夫にするため」「ストレスを解消するため」との関連をもつようになり、50 歳以上の参加者になると、「楽しみ志向」と「健康管理志向」を形成する個々の変数間の相関値が高くなり、さらに両志向の関連が強くなるという傾向を確認することができる。したがって地域スポーツ活動の「楽しさ」の中身は、若年令層から中高年齢層に移行するにつれて、「技術・勝利志向」から「健康管理志向」へと次第に変化していくものと考えられる。

## 5. ま と め

本研究の主要課題は、T市の地域住民がどういった参加動機をもって地域スポーツ活動に参加し、あるいはこれはの参加動機はどういった関連をもって成立しているのかを明らかにすることであった。本文における結果と考察を簡単にまとめると次のようになる。

1) 参加者の参加動機は、「楽しみ志向型」「親睦・交流志向型」「健康管理志向型」「技術・勝利志向型」「つきあい志向型」に分かれる。そしてこの5つのタイプの中で参加者に最も多いの

が「楽しみ志向型」であり、反対に最も少ないのが「つきあい志向型」であった。

2)参加者の参加動機間の相関を、「楽しいからスポーツ活動をする」という動機を中心に、クラブの「スポーツ種目」別、練習や試合への「参加頻度」別、各「年齢層」別に見ていくと、特に「年齢層」の違いによる参加動機間の連関構造に顕著な差が認められた。すなわち若年令層から中高年令層に移行するにしたがって、参加者のスポーツ活動の「楽しみ」の質は、「技術・勝利志向」から「健康管理志向」へと次第に変化するということがあった。

これらの動機の特性をみると、その「楽しみ志向」のもつ意味には、試合を通してスポーツの真剣味の追求に楽しさを見いだすもの、そしてスポーツを手段として社会的・精神的欲求を満たすところに楽しさを見いだすものといった

主に二つの性格があるものと考えられる

## 文 献

- (1) 金崎良三「高齢者のスポーツに関する社会心理学的研究II」(1984年3月 レクリエーション研究 第11 p.27~28)
- (2) 季真「地域スポーツ活動の属性及びコミュニティ意識とその活動態様についての研究」(中京大学体育学研究科昭和63年度修士論文)
- (3) 園田碩哉「遊びの構造論」(昭和58年 不昧堂)
- (4) 徳永幹雄他「現代・スポーツの社会心理」(昭和60年 遊戯社)